独立行政法人地域医療機能推進機構
人吉医療センター　広報誌

翔 syou

11
2022 November
No.604

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理　　念　140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療	診療３本柱	完結型医療	地域包括ケア	社会貢献	医療人育成
患者の人権と意思を尊重します	がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります	地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います	地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します	災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います	地域医療に貢献できる医療人の育成を行います

「排尿自立支援チーム」JCHO 学会優秀賞を受賞

この度、第７回 JCHO 地域医療総合医学会が熊本城ホールで開催されました。「職場チームによる業務改善の取り組みに係る発表」に応募し、最終選考５チームに残り、優秀賞に採択されましたのでその概要を報告いたします。

2020 年４月に泌尿器科医師が赴任し、同年 11 月より排尿自立支援チームを発足し、2021 年２月よりチームラウンドを開始しました。対象は、頻尿や尿失禁・残尿感等がある入院患者です。頻尿の方にはお薬を調整し、尿失禁のある方には排尿のタイミングを考慮して、声かけや動作介助など、入院早期から排尿自立回復に向け、他職種で包括的にケアを行います。毎週水曜日に各部署をラウンドし相談を受けながら活動しています。

チームメンバーの役割として、医師は、排尿機能障害の要因を抽出し治療法の提案をしてチーム活動の方向性を示します。看護師は、ケア計画に基づき病棟でケアを実践し、評価を行います。薬剤師は、排尿機能に影響を与える薬剤の中止や適切な治療薬の提案、副作用の早期発見に努めています。理学療法士は、患者様の日常動作を確認し排尿動作の適切な訓練を行います。チーム活動開始から約１年後の評価では、２回以上介入した患者さんにおいて約 72％が改善できていました。医師、看護師、薬剤師、理学療法士それぞれの立場で業務を分担し、チームとして互いに連携・協働することで効果的な医療が提供できていると実感しています。人は病気で動けなくなると、排尿行為に障害が現れやすくなります。早期発見、早期対応が重要だと言われている為、チームの役割を今後も果たしていきたいと考えています。入院中、排尿に関する悩みがあれば、いつでもご相談ください。

最後に、ご協力、ご支援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

脳卒中リハビリテーション認定看護師
５階病棟　副看護師長　今田　泉

世界糖尿病デー　糖尿病予防、合併症進行予防イベント開催

現在糖尿病は、厚生労働省の「令和元年国民健康・栄養調査」によれば、疾患が疑われる人を含めると、日本人の５～６人に１人が罹患しており、いわゆる国民病といわれています。さらに、国際糖尿病連合（IDF）によると、世界で糖尿病とともに生きる人の数が５億３７００万人に増加し、世界中で糖尿病が驚くほど急速に増えている現状が浮き彫りになったと発表しました。

このような状況を踏まえ、国際糖尿病連合（IDF）では、インスリン開発した医師の生誕日である 11 月 14 日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地での、糖尿病予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進するよう呼びかけました。また、糖尿病キャンペーンのシンボルマーク「ブルーサークル」は国連や空を表す「青（ブルー）」と、団結を表す「輪（サークル）」を意味しており、この日に世界各地で一斉にブルーライトアップを実施しています。

以上の事から、当院でも毎年このイベントに参加し、ブルーライトアップを実施してきました。２０１８年からは、予防活動としてイベントも企画し実施してきましたが、２０２２年の水害・新型コロナ感染症（COVID－19）の影響で、イベントの自粛を行い、ブルーライトアップのみ実施してきました。しかし、今年度は、ブルーライトアップ実施だけでなく、糖尿病予防、合併症進行予防のためのイベントを企画し実施しました。内容としては、健康チェッククコーナーとして、血糖測定・血圧測定・BMI 測定・体脂肪測定を行い、栄養士による栄養相談、医師・糖尿病看護認定看護師による相談コーナーを設けました。コロナ禍での開催でもあったため、外部への案内は控え、外来通院中の患者さんと家族を対象に実施しましたが、６６名の方に来場頂きました。来場された方からは、「今日から食事に気を付けます。」「少し運動もやってみます。」などの動機付けができたと予測できる発言が聞かれました。その他、「健診では空腹時の検査なので、食後を測定してもらえてよかったです。」「何を食べていいか悩んでいたので良かったです。」という感謝の言葉も頂きました。今後もこの活動を続けていきたいと考えており、健康チェック・相談コーナーの他に、研修や講演なども企画していきたいと考えています。

この度イベント開催にあたり、ご支援いただいたスタッフの皆様には、心から感謝いたします。

糖尿病看護認定看護師　根笹　真由美

インフルエンザワクチン接種の推奨

季節性インフルエンザは、インフルエンザウイルスによる呼吸器感染症で 12 月から３月ごろにかけて流行します。インフルエンザは、罹患してもその多くは自然に回復する疾患ですが、肺炎や脳炎などの合併症を併発して重症化する場合もあります。

2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の流行対策として国際的な人流抑制策、公衆衛生上の対策として３密の回避、換気の奨励、マスクの着用等により流行は大変小さいものでした。その結果として今冬は、インフルエンザに対する感受性者（感染を受ける可能性のある人）のさらなる増加が危惧されます。

新型コロナウイルス感染症については今夏（第７波）を上回る感染拡大が生じる可能性があることに加えて、過去２年間流行がなかった季節性インフルエンザも同時に流行する可能性があり、今冬の感染拡大については、専門家の感染の見込みやオーストラリア等の状況も参考に、新型コロナ患者が１日 45 万人、インフルエンザの患者が１日 30 万人規模で同時に流行し、ピーク時には１日 75 万人の患者が生じる可能性を想定して準備が進められております。併せて感染した場合にもできる限り重症化を防ぐため、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザワクチンについて、接種対象者への接種が推奨されています。

我が国における今冬のインフルエンザ HA ワクチンは、世界で分離されたウイルス株とワクチン候補株の反応性や、ワクチン製造所における製造効率などを踏まえた総合的な見地から評価・選定され以下の株からなる４価ワクチンへ変更となっており、今年は過去５年で最大量（最大約 6300 万人分）のワクチンを供給予定になっております。

人吉医療センター　薬剤部長　藤井　裕史

TEL 189は何処に繋がる？　～11月は児童虐待防止推進月間です～

2021年に公開された映画「189」でお知りになった方もおられると思いますが、「ＴＥＬ 189」は全国共通の児童相談所虐待対応番号です。児童虐待を疑う、迷う場合には、この番号にお電話をいただくと、近くの児童相談所に電話が繋がるようになっています。

2022年の診療報酬改訂では不適切な養育などが疑われる小児患者に対する支援体制の評価の新設が行われるなど、医療機関においても児童虐待の防止、早期発見推進が求められています。

当院ではこの診療報酬改訂前より、保健センターや児童相談所と連携をとりながら、要養育支援家庭への支援体制構築に努めて参りました。しかし、急性期の医療機関でスクリーニングできる児童はごくわずかで、氷山の一角にしかすぎません。

子育てへの困難感を抱え、親御さん自身が悩んでいる、不適切な養育になっている、不適切な養育になりかけているなど、皆さんの身近なところにそんなご家庭があるかもしれません。

「通告」、「相談」するということにためらいや迷いがあるのが普通だと思いますが、「通告」、「相談」は時に子のみならず困難に陥っている親も救うことに繋がることがあります。

通報は匿名でおこなうこともでき、通告、相談した人、その内容に関する情報は守られます。

「189（いちはやく）」と覚えていただき、必要時にはためらわずコールしてください。

厚生労働省特設サイト

令和４年度 コンプライアンス研修

今回初めてコンプライアンス研修を受講しました。コンプライアンスとは何か受ける前に調べたところ、「社会のルールや規定・法令を守ること」だと知りました。

よくニュースなどで、データの持ち出しや情報漏洩・パワハラ・セクハラでなどを起こされた方をみたことがありますが、コンプライアンスとは大きくいえば、犯罪に繋がるものと感じました。

実際に私も今の業務において、電話の受け答えや患者さんの名前と生年月日の確認などを行っていますが、ここで起きた小さなミスが大きな問題に発展し、簡単にコンプライアンス違反が起きてしまうのだと思いました。

この研修を受けて、これからの業務を行っていく中で今回学んだことを頭にいれて日々の業務に努めたいと思います。

医事課　森　奈央

HMC 月間目標

今年度６月から当院は年度目標に加え、月間目標を掲げ活動しています。今回は、９月と10月の結果を報告します。

９月の月間目標

各部の取り組みでは、週末に次週の業務分担表作成、予約センターや連携室との連携をズムーズに行う、無理のないタスクシェアを行う、他職種スタッフ、他課スタッフへ依頼できる業務は依頼すること等が挙げられ、結果として依頼できる業務を他スタッフへ依頼し、効率がよくなった、声掛けの機会が増えた、連携がとりやすくなったなどの回答があっています。

10月の月間目標

終業時刻に帰るスタッフはカエルマークを明示する、昼休憩時間のメリハリ、終業時刻前の声掛け、夜勤時間帯の勤務時間変更などの様々な取り組みがありました。その効果として、声掛けしあうことやスタッフを終業させる意識が根付いてきた、時間通りに終業しようとする行動が増えた、カエルマークの効果では、「早く帰れる」ということが気持ち的に楽という意見が聞かれ継続していく、時間外労働も減少したなどの結果が得られています。

11月の月間目標は、上の通りです。

自部署は何が出来るか検討と実践をお願いします。

総務企画課　西山　三智

第２回　地域連携緩和ケア研修会

令和４年 11 月 16 日、第２回地域連携緩和ケア研修会を開催しました。今年度は、“ACP”をテーマに掲げ、第２回の今回は『みんなでつくろう ACP』と題し行いました。医療者だけでなく、行政職員の方々にも多数参加いただき、ざっくばらんに語り合う会となりました。参加者の感想をご紹介します。

地域連携緩和ケアカンファレンス「みんなで作ろう ACP」に Web 参加という形で参加させていただきました。医療情報連携室　南 MSW の講演の下、人吉・球磨で活躍されている連携室の皆様、当院スタッフで参加者も議題に沿って、働く中で悩んだ場面を振り返りタイムリーなディスカッションをすることができました。

私自身も、患者を受け持つ中で主に退院調整や急変時の対応等に本人の意思、家族の意思を本当に尊重できているか悩むこと多々あります。今回 ACP について死期が迫っている、がん病名の診断がついてから余生を考えるということではなく、前向きに自分の今後について家族と考え、準備することで満足できる生活が送ることができると考えました。

今後も研修内容を共有し、患者を中心に病棟スタッフ・他職種で ACP について考えられる環境つくりをしていきたいと思います。

７階病棟　看護師　岡原　尚己

参加者から、「地域住民には知ってもらいたいし、前もって話し合いができていればと思うが、普及・啓発等、元気な時に話し合うことにも難しさがある」、「残りわずかな命の時間だが、延命治療をするか否か、家族の間でも意見が異なる。家族の思いを擦り合わせていく難しさがある。前もって話し合いがなされていたら」など、それぞれの機関での葛藤が語られました。何れの機関においても ACP の重要性や必要性は感じているものの、何が難しくさせているのだろうか、疑問も生じました。これを受け、例えば、小さい頃からなじみのある言葉として ACP を取り入れる工夫はできないものか、ACP とは何かに触れる機会を増やすことが普及啓発の一助となるのではないか、など様々なアイディアもあがりました。また、講師からは、『その人の価値観や人生観の視点から ACP を捉えてみる』、そうすると自ずと延命治療の可否について選択肢が絞られたり、たとえ本人の思いの確認が難しくとも家族が推測できる部分があったり、難しさばかりではない一面が見えてくることの示唆もありました。各機関の思いが共有できた今だからこそ、今ある資源を活用したり、工夫したりすることから始めてみようと、思いを新たにしました。

医療福祉連携室　鶴田　真奈美

人吉下球磨消防組合主催　第 31 回屋内消火栓操法指導会

11 月 10 日、人吉下球磨消防組合主催の第 31 回屋内消火栓操法指導会に当院から３名の職員（薬剤師１名、臨床工学技士１名、事務員１名）が参加しました。

本大会は、屋内消火栓設備の義務設置事業所を対象に毎年行われているもの（新型コロナウイルスの影響で、今大会は３年ぶりの開催）で、防火意識の向上を図る正しい操法の習得を目的としています。屋内消火栓設備を活用し、ホースを延長、放水を行い、３個の標的を落下させるタイムを競う競技であり、大会までに十分な練習を要します。

私たちは通常業務を行いながらも練習時間を確保し、限られた時間の中で練習を積み重ねてきました。練習を重ねる度に消防隊員の方から「優勝候補」と言われ、プレッシャーの毎日でした。

当日は天気もよく、会場も盛り上がりを見せる中での開催となり、当院は惜しくも３位という成績で大会を終えました。

今大会に一緒に参加したメンバーには、とても感謝

しています。練習から本番まであっという間でしたが、日頃からのチームワークの良さにより入賞出来たと思います。また、操法練習で得た知識を今後の防災活動に活かしていきたいです。

総務企画課　井上　稜大

ハワイ研修を終えて

人吉を離れハワイ大学で二日間研修をさせていただきました。初日は主に救急症例についての講義やディスカッション・実践練習を行い、二日目はマネキンを用いた気管挿管の練習や CV カテーテル挿入の練習を行いました。救急症例の勉強は普段 ER で行っている内容と大きな違いこそありませんでしたが、忘れがちなことや全く知らなかった知識を学ぶことができ大変勉強になりました。また、マネキンを用いたシミュレーション実習では成人だけでなく、小児の気管挿管の練習も行うことができ、挿管が困難な場合の気管切開を行う流れも教えていただきました。CV カテーテル挿入の練習やモニターを観ながら腹腔鏡手術を想定した鉗子操作の練習など外科的手技の練習ができたのも良い経験になりました。最終日に二日間で学んだことの総まとめとして実際に患者が急変したことを想定し、チームで初期対応を行う時間がありました。全員頭ではわかっていても迅速に動けていないシーンが多くあったので、日々の救急対応で学んだことを活かして経験を積んでいきたいです。貴重な研修期間をいただき感謝しています。ありがとうございました。

臨床研修医　矢野　健太

人吉医療センターでの地域実習を経て

特別臨床実習 - 地域医療 -

私は今回、地域医療実習として人吉医療センターにて実習させていただきました。

まずはじめに、実習にあたっては総合診療科の田浦先生をはじめ、各科の先生方、研修医の先生方、スタッフの方々に大変優しく迎え入れていただき、とても実りのある時間を過ごすことができました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。今回の実習ではとても多くの学びを得ることができました。

一番印象に残るのは五木村診療所での実習です。診療所で実習する機会というのはこれまで無く、今回が初めてでした。普段の大病院と診療所での診療の違いを実感したとともに、実際に学生主体で診察させていただいたことで外来診療で必要なスキルを肌で学ぶことができました。さらに診察だけでなく薬の分包などもさせていただき、治療をスムーズに進めるための様々な気配りについても触れることができました。全3日という長くはない時間でしたが、とても成長できました。

夜寝る時間を含め一日中病院の中で過ごすという経験は今回が初めてであり、その中で先生方が患者さんのためにどれだけの熱意で頑張っておられるかを身をもって体感し、医師になる上で自分にまだまだ足りない部分であると痛感しました。今回の実習で学んだ知識・得た技術は数多いですが、何よりも大きな収穫はそうした医療者としての姿勢の部分ではないだろうかと思います。

今回の実習で得たものを糧にこれからも頑張って参ります。

3週間ありがとうございました。

熊本大学医学部５年　本田　成彦

私は３週間、人吉医療センターにて地域実習をさせていただきました。今回、この病院で実習をしようと思ったきっかけは、この病院で研修医２年目の部活の先輩から、ここでの実習は勉強になるし、濃い３週間が過ごせるということを教えてもらったことです。聞いていた通り、この病院での実習は、大変勉強になり、楽しい３週間となりました。

今回、この実習をするにあたって、普段大学の実習では経験できないことをできるだけして帰ろうと思って挑みました。実習内容としては、様々な科での外来見学などに加えて、訪問看護、訪問診療、五木村での診療、また自分で選択する実習など盛りだくさんで、大学ではできない経験を多く積むことができました。特に、五木村での診療に関しては、実際に地域の医師になった気分で、患者さんと向き合い、話を聞き、診察をするといった経験は強く心に残りました。また、私は将来外科志望であるため、選択科目で選んだ泌尿器科や一般外科では、手術に入らせていただき、尿管結石の摘出を手伝ったり、尿道バルーンカテーテルの挿入、埋没縫合など、様々な外科的手技も経験させてもらいました。

実習時間外では、美味しいご飯をご馳走になったり、近くの温泉巡りなど、なかなかくることはない人吉を満喫することができました。本当にありがとうございました。おかげさまで充実した３週間を過ごすことができました。また機会があったら、人吉にきたいと思います。お世話になりました。

熊本大学医学部医学科５年　浅尾　公貴

救急救命士の就業前実習を終えて

救急救命士の就業前実習に際し、木村院長、下川副院長をはじめご指導頂きました職員の皆様には大変お世話になりました。

本実習に臨む上で、私は２つの目標を掲げ実習を行いました。一つ目は救急現場で行う初期評価、観察、問診の技術向上、もう一つは特定行為（静脈路確保や器具を用いた高度気道確保）の手技習得です。

実習期間中は、実際に患者様を対応させて頂く中で、現場経験がない事もあり難しさを感じる点が多々ありましたが、人吉医療センターの皆様に分かりやすく、丁寧な指導をして頂き、現場で対応できる知識及び技術を身につけることができたと実感しております。

また、病院内の立場から救急現場を見ることで、救急現場で活動する救急救命士がどのような観察、処置、問診を行うことが患者様の適切な治療や救命に繋がるのか知ることができました。

今回の実習の中で身につけた知識､技術を引き続き研鑽するとともに､人吉医療センターの皆様の救命に対する真摯な姿勢を手本とし、私の救急救命士としての第一歩を踏み出していきたいと思います。

最後に、このようなご時世の中、貴重な経験をさせて頂き心より感謝申し上げます。

人吉下球磨消防組合　平野　光

ビーチボールバレー大会

11 月 18 日（金）人吉スポーツパレスにおいて、３年ぶりにビーチボールバレー大会を開催しました。今回は、マスク着用、ハイタッチなし、審判は笛を使わない、などwith コロナでの開催となりました。自部署、他部署との交流も図ることができ、業務中では見られない一面も垣間見え、一致団結し和気あいあいとした楽しい時間を過ごせました。

前回に引き続き耳鼻咽喉科の荻先生率いる９Ｆ①チームが優勝となりました。また来年の開催を楽しみに､日々の業務に研鑽して参ります。

新任紹介

愛甲　正彦（経理課・技能員）
趣味：歴史探訪、読書
モットー：「初心に戻る」
自分の性格：少々考えすぎるところあり
自分のコマーシャル：今回このような機会に恵まれ感謝しております。少しでもお役に立てれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

山本　徹次郎（経理課・技能員）
趣味：ビデオ鑑賞
モットー：健康　元気が一番
自分の性格：温厚
自分のコマーシャル：体に気を付けて仕事をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

米澤　豊（経理課・技能員）
趣味：ドライブ、旅行、無線通信に知識有
モットー：気配り、感謝の言葉
自分の長所：物事を集中して行動
自分の短所：集中しすぎて時間がかかる
自分のコマーシャル：病院勤務は初めてですが、過去の職歴を活かして頑張ります。

職員情報

たかさご　愛甲　舞（旧姓：川辺）

フィッシング部　活動報告

11 月上旬、三角港より出船し、フィッシング部の活動を行ってきました。タイラバと呼ばれる疑似餌で鯛を狙ったのですが、釣り方はとても簡単で、仕掛けを底まで落とし、着底と同時に一定スピードで巻くだけと初心者でもできる釣りです。一方、当日のヒットパターンを見つける為に仕掛けの色や形、重さ、巻きスピードを変えたりと奥が深く、そこが楽しい点でもあります。当日は当たりが少なく厳しい状況でしたが、私はなんとか２匹の鯛を釣り上げることができ、釣った鯛は姿造りと塩焼きにして食べました。自分で釣った鯛の味は格別です。フィッシング部は年に２回程活動しています。初心者でも大歓迎ですので、興味がある方は是非お声掛け下さい。

人吉ひかりの復興プロジェクト

人吉球磨は 2020 年７月の水害で大きな被害を受けました。困難から立ち上がり、ふたたびまちのあかりを灯し、以前よりももっと素敵な人吉・球磨となるよう人吉観光復興プロジェクト協議会が「人吉ひかりの復興プロジェクト」を立ち上げられました。2022 年は 10 月 28 日から人吉の各名所にあかりが灯されています。

当院の隣に鎮座する老神神社も優しいあかりに灯されています。茅葺屋根がひときわ美しく身も心も癒されます。夜の老神神社へ癒しを求めてお散歩されてみてはいかがでしょうか。

https://www.hitoyoshihikari.com/

発行／独立行政法人地域医療機能推進機構 人吉医療センター　題字／「翔」吉村伯舟　初刊／昭和47年9月　印刷／㈲ソーゴーグラフィックス
TEL0966-22-2191・FAX0966-24-2116　URL http://hitoyoshi.jcho.go.jp/　E-mail main@hitoyoshi.jcho.go.jp

E-mail　URL